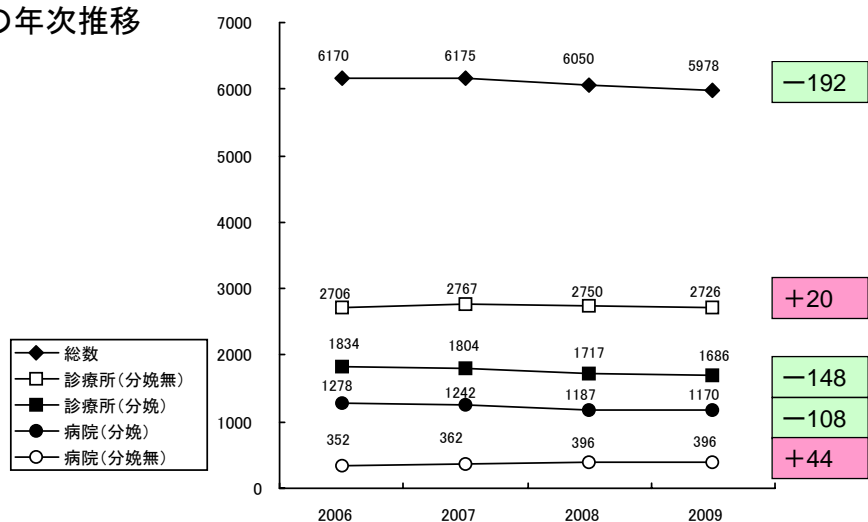


産婦人科医師の就労状況 と 未来予想図

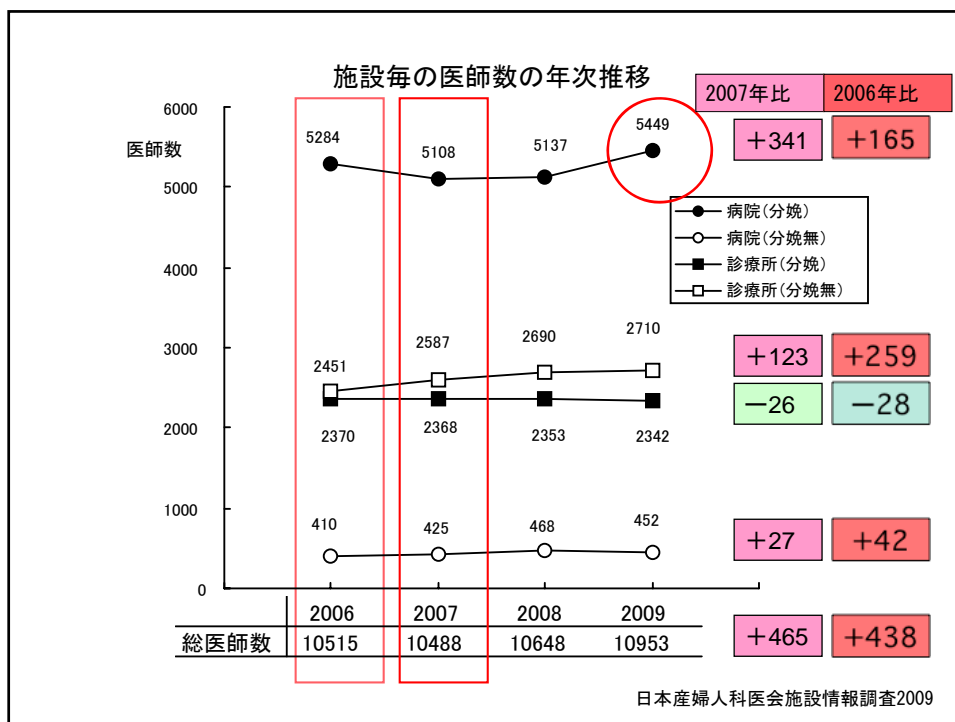
日本産婦人科医会
日本医科大学
中井章人

社団法人日本産婦人科医会 第32回記者懇談会 H22.4.14 資料

産婦人科施設数の
年次推移



日本産婦人科医会施設情報調査2009



分娩取り扱い病院勤務医の就労環境

2007年、2008年全国アンケート調査との比較

	2009年	2008年	2007年
対象施設	1157	1177	1281
有効回答(%)	823 (71.1)	853 (72.5)	794 (62.0)
分娩数			
1施設あたり	499.8	474.8	446.3
常勤医1名あたり	88.9	98.3	98.4
帝王切開率(%)	22.5	21.9	NA
母体搬送受入数	25.0	24.2	NA
1施設あたりの医師数			
常勤医	5.6	4.9	4.5
(うち女性医師%)	1.8 (32.1)	1.5 (30.6)	NA
非常勤医師	1.9	1.9	1.5
常勤助産師数			
当直を除く1週間の勤務時間	51.6	52.1	NA
1ヶ月間の推定在院時間**	317.1	317.7	NA
当直			
回数(／月)	6.0	5.9	6.3*
睡眠時間(h)	4.8	4.7	NA
翌日勤務緩和(%)	156 (19.0)	142 (16.7)	58 (7.3)
手当増額(%)	144 (17.5)	124 (14.5)	73 (9.2)
分娩手当(%)	339 (41.2)	230 (27.0)	61 (7.7)
特殊手当(%)	143 (17.4)	110 (12.9)	41 (5.2)
ハイリスク加算の還元(%)	39 (8.2)***	66 (7.7)	5 (0.6)
クラークの配備(%)	346 (42.0)	256 (30.0)	NA

* 2006年度定点点調査より換算

NA: not applicable

**当直における拘束時間を16時間として算出

***ハイリスク加算の請求がある473施設における頻度

施設は減少、勤務医師は微増。
勤務時間の改善はない。
待遇面は緩やかな改善。

日本産婦人科医会勤務医部全国調査2009年8月

周産期母子医療センターの概要

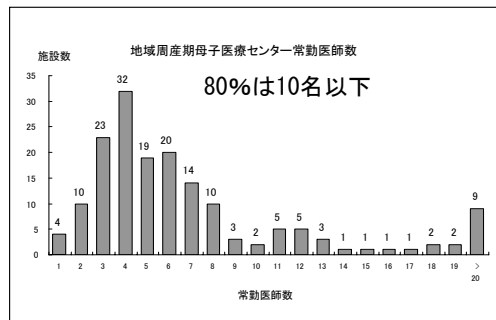
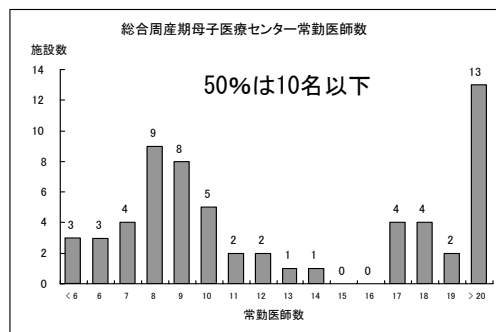
	総合	地域	一般	total
対象施設	75	234*	848	1157
有効回答 (%)	62 (82.7)	167 (71.4)	594 (70.1)	823 (71.1)
分娩数				
1施設あたり	816.9	577.8	460.3	499.8
常勤医1名あたり	60.8	77.0	103.7	88.9
帝王切開率 (%)	35.3	29.1	22.2	22.5
母体搬送受入数	119.8	53.9	28.1	25.0
1施設あたりの医師数				
常勤医	13.2	7.5	4.3	5.6
(うち女性医師)	5.2	2.8	1.2	1.8
非常勤医師	2.4	1.3	2.1	1.9
常勤助産師数	30.7	17.8	11.4	14.2
当直を除く1週間の勤務時間	55.2	54.4	50.5	51.6
1ヶ月間の推定在院時間**	318.2	317.9	318.8	317.1
当直				
日勤・夜勤交代制 (%)	4 (6.5)	4 (2.4)	39 (6.6)	47 (5.7)
回数 (ノ月)	5.1	5.3	6.4	6.0
睡眠時間(h)	3.8	4.6	4.9	4.8
翌日勤務緩和 (%)	21 (33.9)	40 (24.0)	95 (16.0)	156 (19.0)
手当増額 (%)	7 (11.3)	36 (21.6)	101 (17.0)	144 (17.5)
分娩手当 (%)	17 (27.4)	82 (49.1)	240 (40.4)	339 (41.2)
特殊手当 (%)	13 (21.0)	35 (21.0)	95 (16.0)	143 (17.4)
産科医療確保事業による補助 (%)	20 (32.3)	70 (41.9)	215 (36.2)	305 (37.1)
ハイリスク加算の還元 (%)***	6/44 (13.6)	15/115 (13.0)	18/314 (5.7)	39/473 (8.2)
クラークの配備 (%)	39 (52.0)	95 (40.6)	212 (25.0)	346 (42.0)

* 237施設中産婦人科のない3施設は除く

**当直における拘束時間を16時間として算出

***ハイリスク加算の請求がある施設における頻度

日本産婦人科医会勤務医部全国調査2009年 8月



女性医師支援に関する調査結果の比較

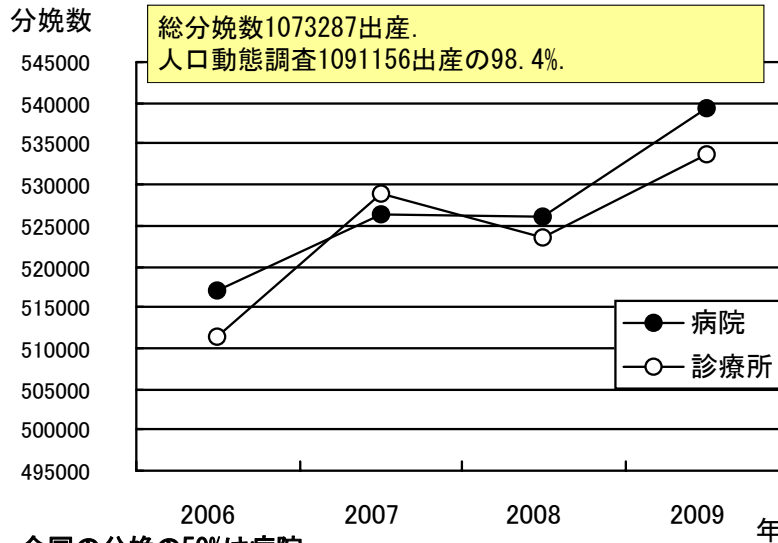
	2009年	2008年
対象施設	1157	1177
有効回答(%)	823 (71.1)	853 (72.5)
集計された女性医師総数	1503	1259
妊娠・育児中の女性医師数(%)	475 (31.6)	413 (32.8)
院内保育所の設置状況		
設置される施設(%)	436 (53.0)	399 (46.8)
病児保育(%)	85 (10.3)	80 (9.4)
24時間保育(%)	134 (16.3)	111 (13)
利用者数(%)*	163 (34.3)	163 (39.5)
代替医師派遣制度(%)	79 (9.6)	110 (12.9)
妊娠中の勤務緩和		
制度がある(%)	378 (45.9)	388 (45.5)
軽減される妊娠週数	22.5	23.3
実績人数(%)*	442 (93.1)	371 (89.8)
育児中の勤務緩和		
制度がある(%)	363 (44.1)	346 (40.6)
軽減される期間(月)	17.5	15.3
実績人数(%)*	350 (73.7)	260 (63.0)

女性医師のうち、31.5%が妊娠・育児中。院内保育所の導入率は上昇したが、女性医師の利用者数は減少。

*妊娠・育児中の女性医師における頻度

日本産婦人科医会勤務医部全国調査2009年8月

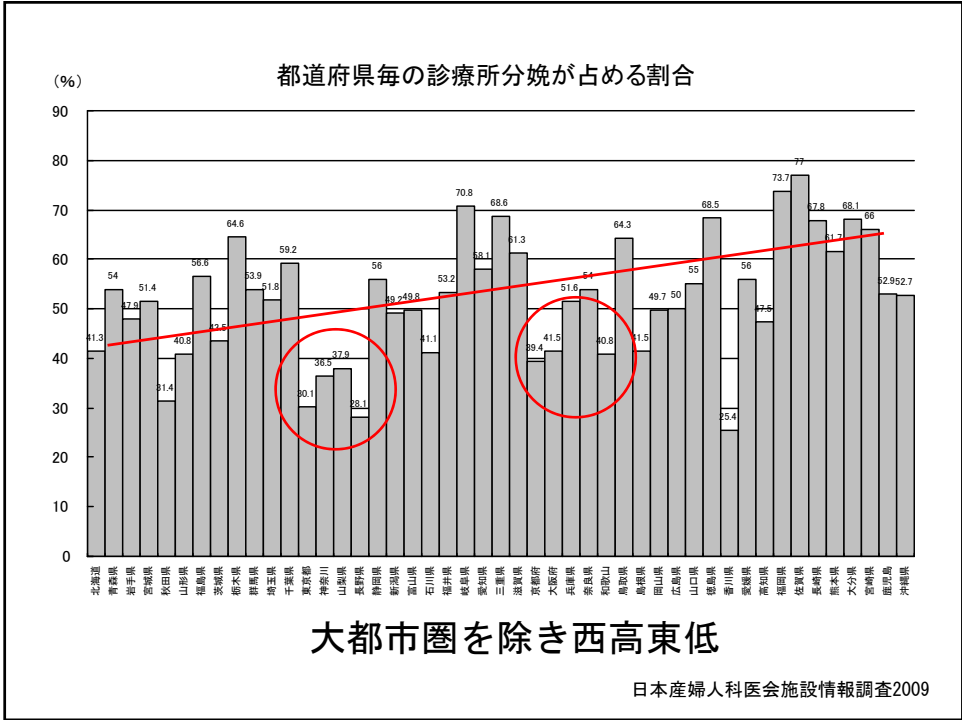
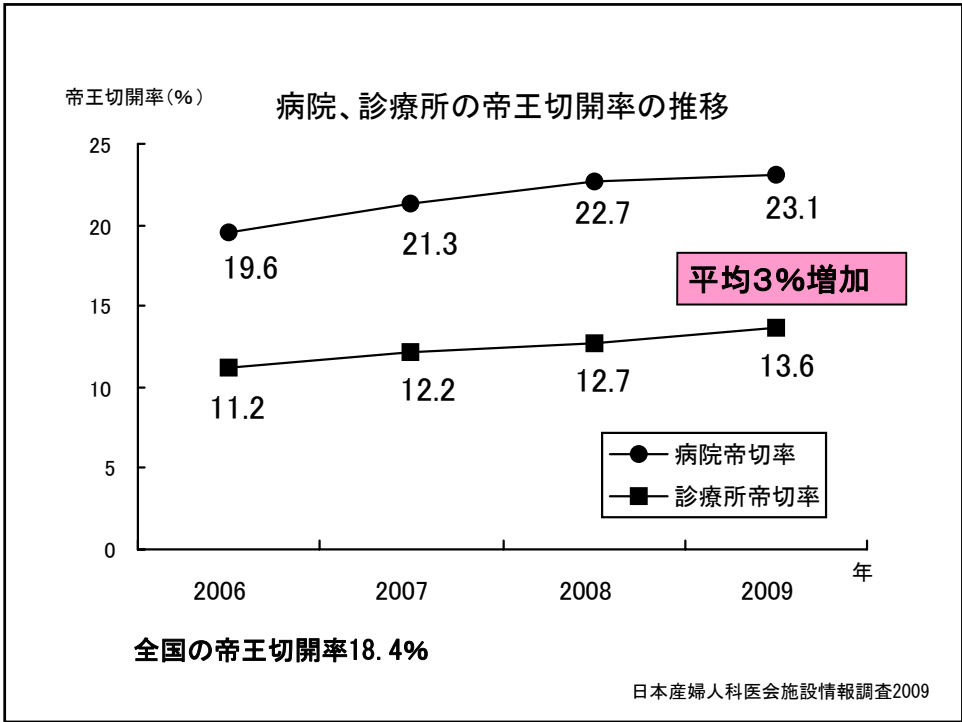
病院、診療所の取扱い分娩数の年次推移



総分娩数1073287出産。
人口動態調査1091156出産の98.4%。

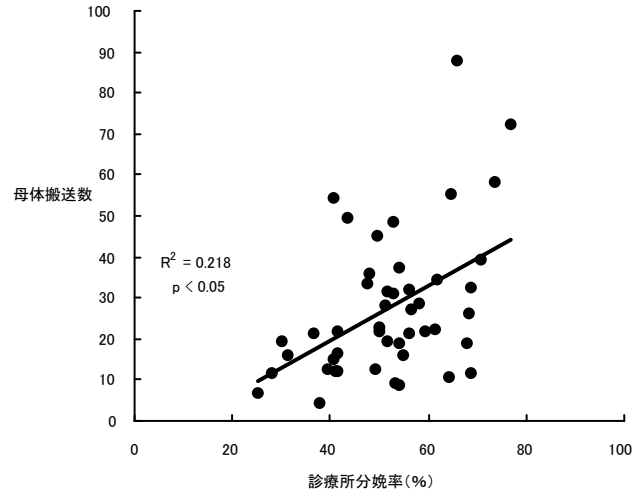
全国の分娩の50%は病院、
50%は診療所

人口動態調査2008年
日本産婦人科医会施設情報調査2009



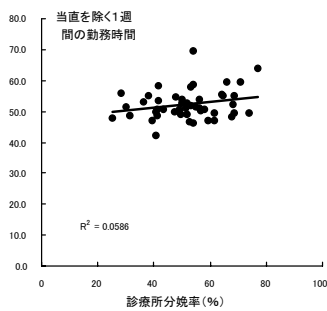
診療所分娩率が病院勤務医師の就労環境に及ぼす影響は？

都道府県毎の診療所分娩率と母体搬送受入数

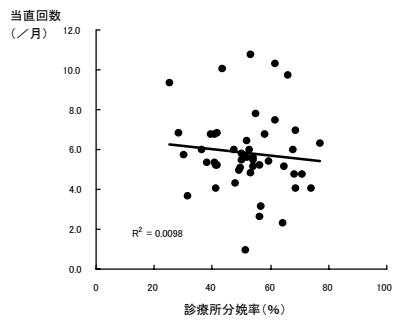


日本産婦人科医会勤務医部会全国調査2009年
日本産婦人科医会施設情報調査2009

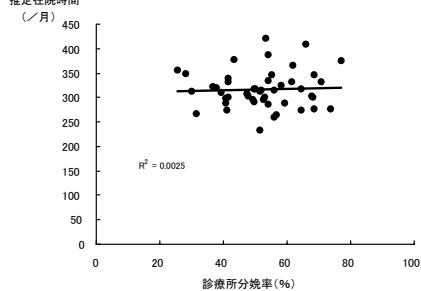
都道府県毎の診療所分娩率と病院勤務医の就労時間



都道府県毎の診療所分娩率と病院勤務医の当直回数



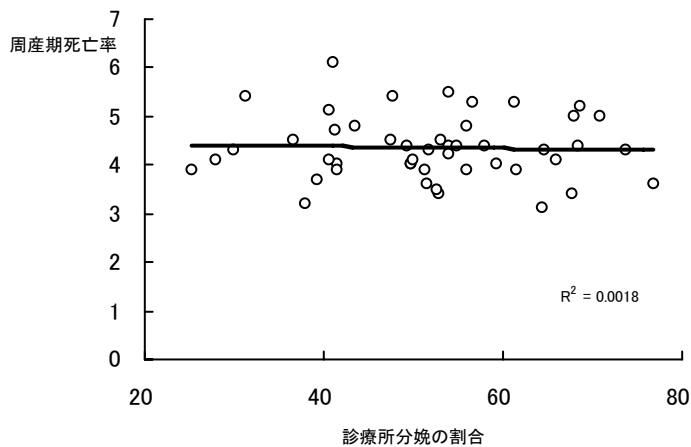
都道府県毎の診療所分娩率と病院勤務医在院時間



診療所分娩率が高い県は平均母体搬送件数が多いものの、病院勤務医の就労環境に影響は及ぼしていない。

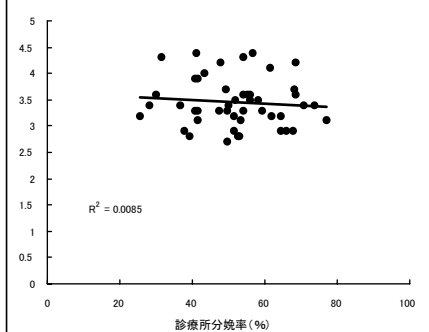
日本産婦人科医会勤務医部会全国調査2009年
日本産婦人科医会施設情報調査2009

都道府県毎の診療所分娩割合と周産期死亡率

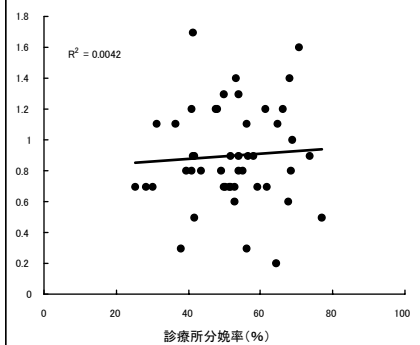


人口動態調査2009年
日本産婦人科医会施設情報調査2009

診療所分娩率と妊娠22週以後の死産率

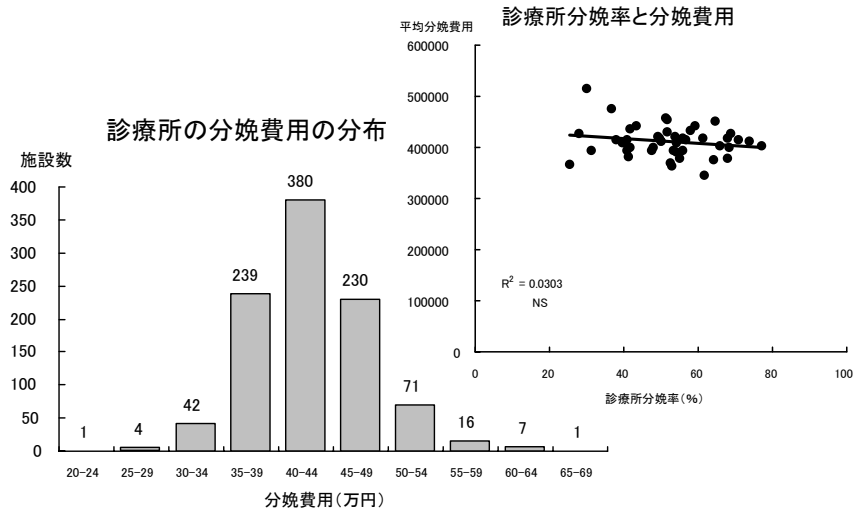


診療所分娩率と早期新生児死亡率

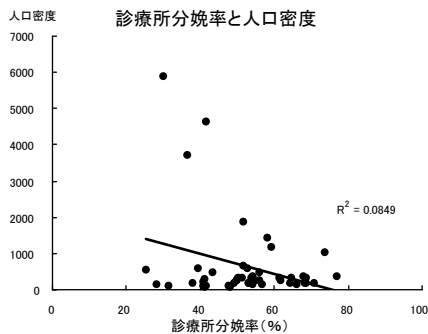
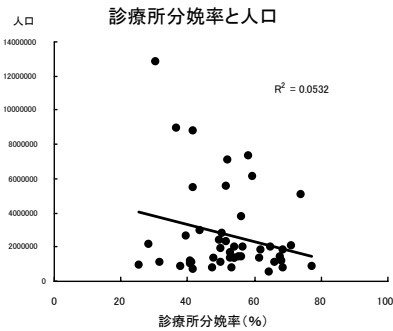
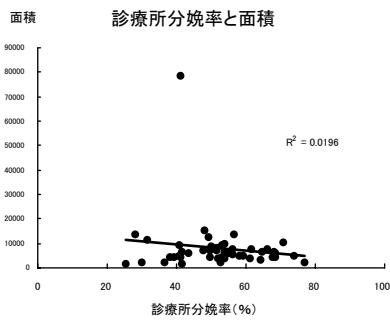


診療所の分娩は本邦の周産期予後の維持に役立っている。

診療所分娩率は何に影響され増減するか？

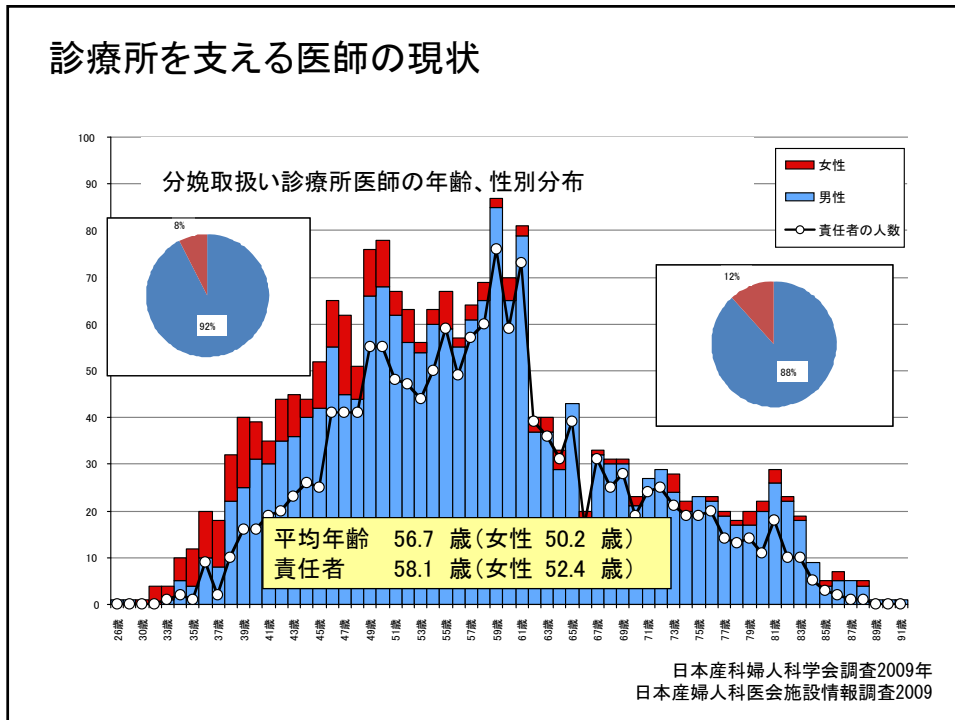
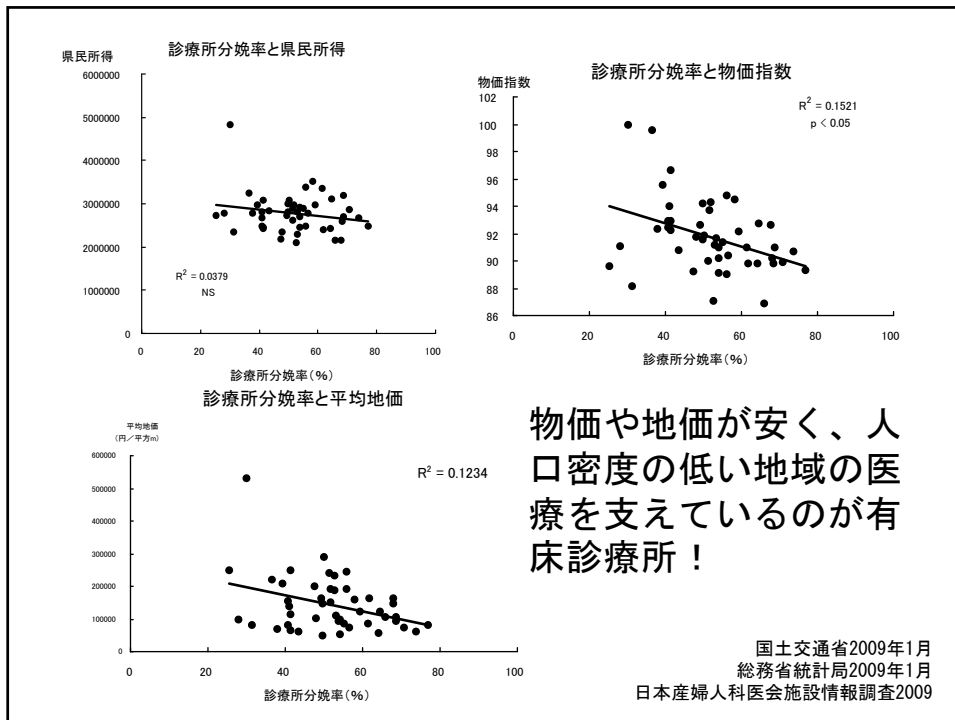


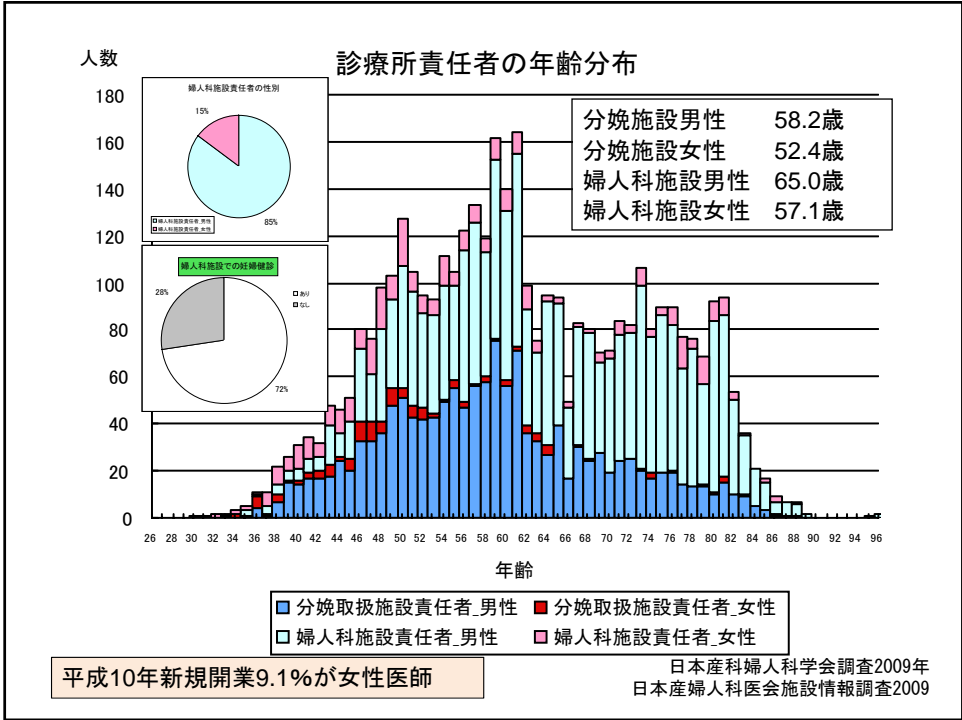
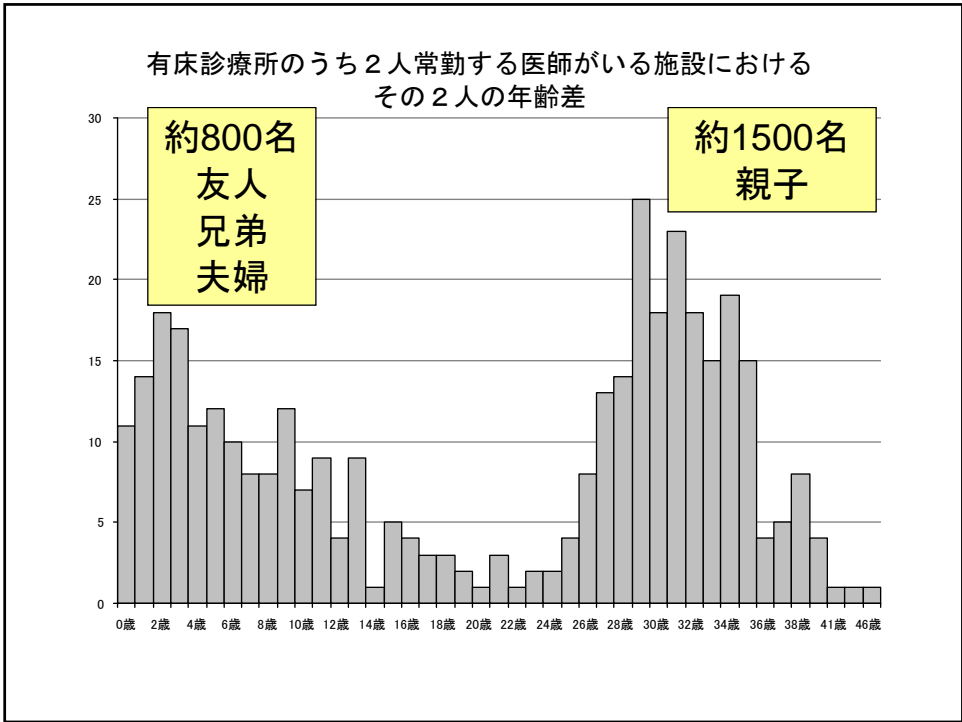
厚生労働省科学研究2009年1月
日本産婦人科医会施設情報調査2009



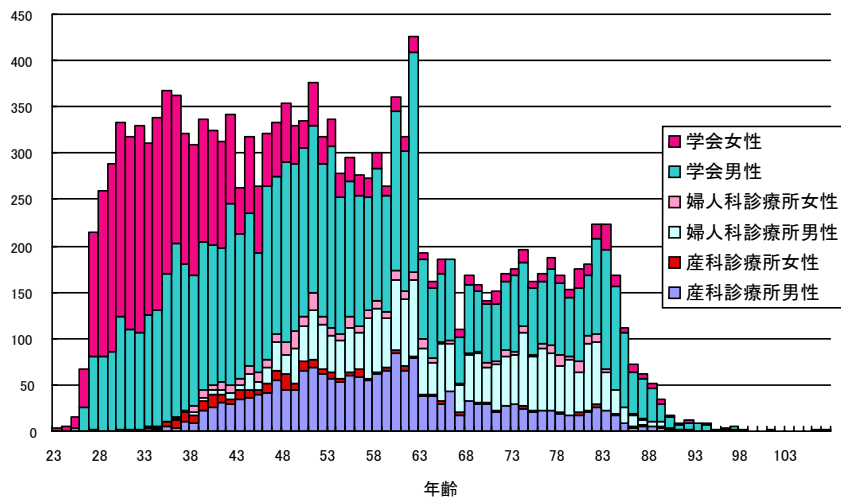
土地が広く、人口が少ない、すなわち人口密度の低い地域で診療所分娩は多い傾向にある。

国土交通省2009年1月
総務省統計局2009年1月
日本産婦人科医会施設情報調査2009





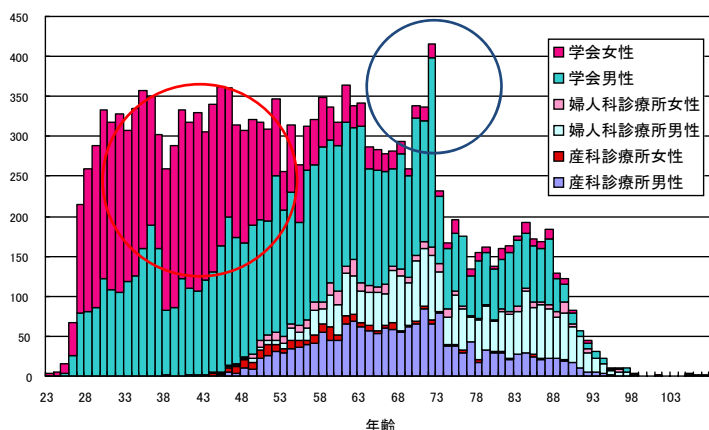
産婦人科医師の年齢、性別分布



日本産科婦人科学会調査2009年
日本産婦人科医会施設情報調査2009

新人医師の70%は女性

産婦人科医師の年齢、性別分布



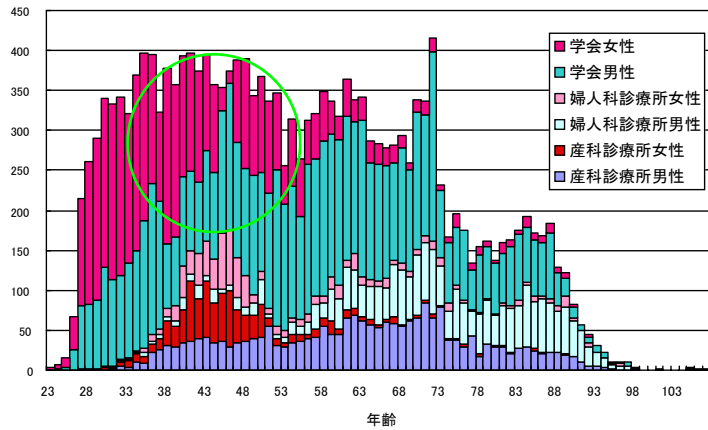
退職者増加により総医師数は不変か微増

女性医師の35%は分娩から離脱

中井章人未来予想研究所? 2010年1月

女性医師が診療所勤務に移行すれば？

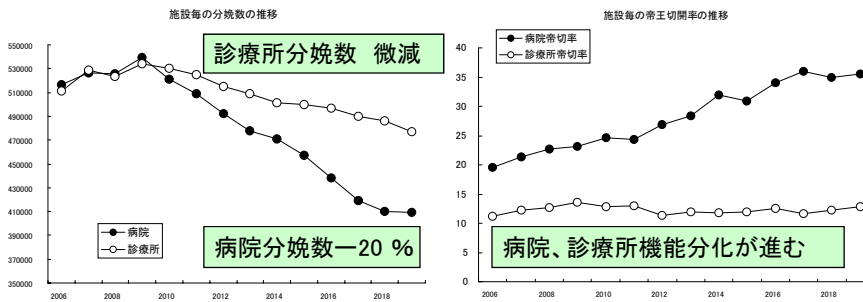
産婦人科医師の年齢、性別分布



病院勤務医師は25%減少する

中井章人未来予想研究所？2010年1月

未来予想図



未来予想に重要なことは原因と結果です。現在の危機的状況はその勤務体系がもたらした結果です。したがって、より急速な勤務医就労環境の改善を行わなければ、同じ10年をくり返すでしょう。

病院勤務医師減少に対し、施設機能をより明確にし、搬送システム向上、広域搬送システム確立など救急体制の強化。
オープン、セミオープンシステム、地域パス、院内助産を推進する。
有床診療所開設、運営への支援。

中井章人未来予想研究所？2010年1月

日本産科婦人科学会医療改革委員会
グランドデザイン(抜粋)

目標：20年後、90万分娩に対応する。

人員増員：

新規産婦人科専攻医、年間最低500名を確保。
助産師養成数を年間2000名以上まで増員。

医療供給体制の維持：

分娩管理の効率化と多様性を確保するため分娩数
全体の2分の1から3分の2を産科診療所等の産科専
門施設で担当する。